

同窓のよしみ・・・



広瀬 夏葉子（旧姓宮下）

（高校31回） 伊那市西春近 在住

私は 女子高最後の卒業生・・・100年の歴史を考えると、なんだか感慨深い。

初めての男子の後輩を迎えた春。

全校生徒 1000 人中・・・わずか 74 人。第 1 期生の男子はどんな気持ちだっただろうか？

当時は、移動教室が多く、都会のラッシュアワーのように ゾロゾロ～と廊下を歩いた。

数少ない男子は、先輩の目を惹いたものだった。

あれから 33 年・・・。今では、男女の人数も半々となり、大変活気付いている。

昨年、娘が後輩として卒業し、今は大学生活を満喫している。

それでも、「高校はよかったなあ～」 としみじみと言う。

男女仲良い最高のクラスメートに、頑張りあった部活仲間に出会い楽しかったようだ。

最近の弥生生はいなっせの学習室を利用し勉強する。

娘も受験体制に入ってから毎日通っていた。

座席が充分でないらしく、休日の朝は、電車の到着時間と争うようにいなっせまで車で送ったものだった。

一度、用があり、学習室を覗いてみた。

それはシーンとした空気で驚いた。

いなっせのおかげに、友達と励まし合い、頑張れたように思える。

いなっせは 8 時まで、勉強ができる。

学校の教室は時間に制約がある。

もう少し時間が自由になる学習スペースが学校にあれば、生徒たちもより勉強に集中できるのだろう。

先日、機会があり、同窓会の会合に参加した。

大先輩方が精力的にご活躍の中、男子 1 期生、2 期生は先輩方に頼りにされ、存在感を示していた。頼もしかった。

時は流れ、たくさんの卒業生がいる。

地域で、職場で、同窓と聞くと、なんだか親近感が沸く。

頑張っている先輩に励まされ、可愛い後輩の笑顔に癒される。

乙女花の校歌、娘と斉唱できる三拍子の校歌と共に、母校に気持ちを馳せ、後輩たちの輝きを応援したい。